



笑顔いっぱい大北小 みんなで育つ大北小

大北小だより

2月号

平成30年2月1日

練馬区立大泉北小学校

校長 内木 勉

<http://www.ooizumi-n-e.nerima-tky.ed.jp/>

雪降る街で

校長 内木 勉

1月22日、予想を超える大雪となりました。天気予報よりも早く舞い始めた雪は、お昼過ぎにはどろんこ山を真っ白にしました。最初は10cmと予想されていた積雪も、お昼過ぎには20cmを超える予想となり、子どもたちへ下校と翌朝の登校の注意を呼びかけるとともに、教職員にも早めの帰宅を促しました。私も早めに学校を出てバス停に向かいました。激しく降る雪の中、20分ほど待ちましたが、バスが来る気配さえありません。このまま待つか悩んだ末、意を決して駅まで歩くこととしました。

学校を通り過ぎ、まず出会ったのは大北小の子どもたちでした。自宅マンションの近くで必死に大きな雪だるまを作っていました。歩いてくる私を見つけると、「校長先生こんにちは。雪だるま作っているんですけど、これ以上転がらないんです。」と駆け寄ってきました。私もこういうことは大好きなので、ようしとばかり一緒に大きな雪玉を転がしました。完成まで見届けることはできませんでしたが、お母様もいらっしゃったので、その場を後にしました。(次の日の朝、大きな雪だるまが道ばたにたたずんでいました。) 駅に向かう道を歩いて行くと、自転車に乗った警察官と出会いました。スリップなどの事故がないか巡回しているのでしょうか。しばらく歩いて行くと、先ほどの警察官とまた出会いました。「雪の中、ご苦労様です。」と思わず声をかけると「ありがとうございます。お気を付けて。」と応えてくださいました。またしばらく歩いて行くと、滑り止めを付けたバイクで配達をしている郵便配達の方に会いました。雪に埋もれた路面を滑らないように注意深く進む姿に思わず「すごい雪で大変ですね。」と声をかけました。「ありがとうございます。こんなに降るとは思っていませんでした。」と微笑みながら応えてくださいました。住宅地に入り、普段でもすれ違うのがやっとの細い路地を曲がろうとした時、向こうから歩いて来る方に気付いたので立ち止まりました。その方は路地をこちらまで来ると「ありがとうございます。滑るところがあるので気をつけてくださいね。」と会釈をしてくださいました。駅までもう少しという道を歩きながら、雪まみれで顔や耳も痛いくらいに冷たくなっていましたが、ここまでの小さな出会いと出来事で心はじんわりとあたたかくなっていました。

翌日の朝は、どこもかしこも一面の銀世界。電車は何とか動いているもののバスは1台も無く車もほとんど通りません。さらに積もった雪が音を吸収しているのか、本当に静かで美しく神秘的な風景が広がっていました。雪を踏みしめる音、枝から落ちる雪の音、自分の息づかい。いつもは気付かない音を楽しみながら学校に向かいました。数年ぶりの大雪で大変だったけれど、心がぽかぽかとあたたかくなる素敵な時間だったなあと思えました。雪降る街で出会った小さな出来事の数々を思い起こしながら…。

2月行事予定表

◎今月の生活目標:時間を守って集まろう

チャイムの合図を守ろう けじめのある生活をしよう きまりをまもろう

日	月	火	水	木	金	土
				1 節分集会	2 新1年保護者会	3
4	5 全校朝会 委員会⑩	6 安全指導	7 けやき班集会	8	9	10 土曜授業公開 2/1 成人式(4年) ヤクルト出前授業 (2年)1校時 防災授業 (2年)3校時
11 建国記念の日	12 振替休日	13	14 C時程 4時間授業 (教育会研究発表 会のため)	15 音楽朝会	16	17
18	19 全校朝会 クラブ⑮	20	21 合唱団発表集会	22 6年生を送る会 (3校時)	23 保護者会(5・6年) 14:50~ セーフティ教室 (2年)2~4校時	24
25	26 全校朝会 クラブ⑯最終	27	28 クラブ発表集会 ①	3/1 B時程 感謝の集い 14:30~15:30	3/2 PTA総会 15:00~	3/3

※2月の避難訓練は予告なしで実施いたします。

「6年生を送る会について」 特別活動主任 伊藤 裕樹

2月22日(木)の中休みから3校時にかけて6年生を送る会が行われます。お世話になった6年生にお礼とお祝いの気持ちをこめて1~5年生が行う会です。6年生はこれまでの学校生活を振り返りながら、各学年の趣向をこらした出し物を見て、心温まる楽しい時間を過ごします。入場時には6年生と1年生が手をつないで入場します。司会は代表委員の5年生を中心に行うので、学校の顔でもある現6年生と次年度の6年生がバトンタッチをする会にもなっています。

難しいですが……継続が大切です

副校長 大野 正人

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、今年度は青戸慎司先生に來校していただき、講演を聞きました。青戸先生は、陸上競技の100Mの元日本記録保持者で、夏のオリンピックに2回出場(冬はボブスレーで1回の計3回)されました。25日は、出場に至るまでのご自身の小学生の頃からの過ごし方を話されました。

人並み以上の努力は当然のことですが、一番言ってほしくない言葉が「頑張れ」といったことには驚かされました。これ以上何を頑張るんだ、私(青戸先生)は考えられる努力は全て行って(継続して)きた、という自負がそのような気持ちになるのかと思われました。

児童は、日本一になる厳しさ、そして日本一でも世界では容易に勝てない厳しさを感じたとともに、努力を継続する大切さを、そして出場した選手に対する尊敬の念と応援したいという気持ちをもてたことと思います。

継続することは、スポーツばかりではありません。青戸先生も、スポーツで世界と渡り合うには勉強しなくてもよい教科はない、皆さんは勉強を続けることが大切だ、と結びました。

研究だより ～4年生 研究授業～

4年担任 伊藤 聖矢

1月19日に4年3組にて、国語科「だれもが関わり合えるように」の単元で研究授業を行いました。「だれもが」という視点から、総合的な学習の時間で学習してきた「だれとでも心を合わせて」と連携させ、たくさんの体験学習から学んだこと、経験したことを通し、「目や耳、体が不自由な方々とどのようにしたら上手に関わり合えるのか」をより深く考えることができました。

単元の内容としては、自分たちが「知りたい」と思ったことを調べ、その中からクラスみんなに伝えたいことを班で選び、発表するといったものです。まず、それぞれの障害について、人との関わりを助けるため道具、町の中にある設備、手助けの仕方などを調べてカードを作りました。調べ学習から意欲的に取り組み、多い子では50枚ほどのカードを作っていました。そのカードの中から、「だれもが関わり合えるために知っておくとよいもの」をテーマに、発表したい内容を一人ひとりが選びました。それぞれが選んだカードを班で持ち寄り、どの内容をどの順番で発表していくかを、本時の授業の中で話し合いました。司会を任された子どもたちは緊張しながらも話し合いをスムーズに進めたり、書記を任された子どもたちはすばやく丁寧な字で記録をとったりと、自分たちの仕事をしっかりとやりきりました。提案の中では、「理由を挙げて話す」「適切な言葉を使う」「話の中心にそって聞く」「進行に沿って話し合う」という4年生で学んできたことを意識しながら話し合いができていました。授業のふり返りでは、「〇〇さんが理由を挙げて話していたので分かりやすかった」「□□くんがしっかり聞いてくれて話しやすかった」など、友達のよさを認め合うことができました。

今回の学習を通して学んだ、話し合いの力や認め合う力をさらに様々な場面で使える高学年になれるよう、引き続き指導していきます。



研究だより ～2年生 研究授業～

2年担任 松永 美知子

2年生は、国語科「あったらいいな、こんなもの」という単元で研究授業を進めています。

自分の「あったらいいな」と思う道具を考え、友達に分かりやすく発表し合うことをゴールにして学習計画を立てました。ここでは、話し方を工夫し、聞くことの大切さを感じながら、話題に沿ってやり取りする（対話）ことで、「あったらいいなと思う」内容を充実させることを学ばせるのがねらいです。

第1時は、子供たちの「あったらいいな」と思うものを自由に想像し、ワークシートに書き出すところからスタートしました。その内容を読んでみると、発想力の豊かなこと！子供たちのアイデアは、柔軟で面白いものばかりでとても感心しました。

次に、自分が考えた道具の中から友達に紹介したいものを一つ選んで、それを絵に表し、思いつくことをワークシートにメモ書きしていきました。「この道具はね・・・」「形はね・・・」とつぶやきながら、子供たちは道具のイメージをどんどん広げていきました。自分が考えた道具に、愛着をもち始めた様子が見え始めました。

今後、二人ひと組になり、互いの「あったらいいな」と思うものについて尋ね合い、それによってさらに道具を詳しく考える学習を進めていきます。対話は相手に答えてもらうために、尋ねる人の聞き方が大事になってきます。「どんなものを考えたの？」「どうしてそれを考えたの？」「どんなことができるの？」等という尋ね方は、既に学習しました。また、仲良く楽しい対話ができるような相づちの仕方（うなづく、共感する、同調する、相手の言葉を繰り返す、一言感想等）も学んでいます。研究授業では、このような対話を通して、自分の「あったらいいな」と思う道具をさらに詳しく考え、ワークシートにメモを書き足していく予定です。

小グループの発表会に向けて、「はじめ・中・おわり」の構成を考えた発表メモを作成し、発表会にふさわしい話し方、聞き方の指導も行っています。

この単元を通して、友達の話聞くことの大切さや楽しさを日常的に味わわせるとともに、話を聞く態度の定着を図り、話し合いや対話を通してのコミュニケーション能力を育てていきたいと思っています。

